



江南の子

令和4年度
第9号

“逆風”とレジリエンス

校長 藤井 正人

冬季休業直前の今週は、二十四節気の文字通りの“大雪”に見舞われたり、校内の新型コロナウイルス感染が急増したりと、何かと落ち着かない一週間となりました。しかし、後期前半2か月全体を通しては、順調に教育活動を実施することができ、いずれも所期の目的を十分に達することができました。皆様のご理解とご支援に感謝申し上げます。

後期前半の最大の行事と言え、やはり11月25日に実施された児童会活動「江南まつり」。活動後、ある5年生は、振り返りで次のように書きました。「江南まつりをして分かったことは、思い通りにいかないことがあっても一人一人がしっかり準備や練習をしていたらなんとかなるということです。」…この気付きは、通常の教科の学習では決して得ることのできない価値ある学びです。そして、“思い通りにいかないこと”すなわち“逆風”に出遭うからこそ得られる学びでもあります。「江南まつり」では、子どもたちに裁量権を大きく委ねているがゆえに、“逆風”に出逢う場面が少なからず出てくるのです。

ある6年生の学級は、かなり深刻な“逆風”に見舞われました。「お化け屋敷なのに、会場が暗くならず、お客さんが怖がってくれない」。というのも、この日は、この時期にしては珍しく雲一つ無い晴天で、遮光カーテンのわずかな隙間からも強い光が差し込んでいました。ホラー空間の雰囲気が出せず、期待していたようなリアクションが得られないお化けチームは、その度に心が折れていたと言います。

そんなことが続く中、その6年生はどうしたか。「この光は自分たちの力ではどうすることもできない。それなら逆に楽しいお化け屋敷にしよう」。まさしく逆転の発想です。楽しいBGMを流し、面白いポーズでお客を迎えるなど、自分たちで次々とアイデアを考え出し、活動後のアンケートでは、全校から大好評を得たようです。

現在、NHKで放映されている朝ドラ『舞いあがれ』のキャッチコピーは、「向かい風を飛ぶ力に変えて」です。このように「向かい風」つまり“逆風”にくじけず、プラスに転じる力のことをレジリエンスと言い、今後ますます必要な力として注目されています。

このレジリエンスは、学校時代に、「江南まつり」の例で示したような“逆風”を乗り越える経験をたくさんする中で身に付いていきます。もちろん学校時代に出遭う“逆風”は、生活や人生を損なうほどの影響があってははいけません。あくまで、教育活動の範囲内での“逆風”に留めておくことは当然です。しかし、子どもたちが将来、実社会に出た時には、強い“逆風”に遭遇する場面があるかもしれません。そんな時に、学校時代で身に付けたレジリエンスが大いに発揮されることを願っています。

新しい年2023年は、子どもたちに、まずは“順風”が大いに吹きますように。そして、時折出遭う“逆風”をうまく乗り越えてくれますように。皆様、どうぞよいお年を。